

ワークショップ 8

「十二指腸腫瘍内視鏡治療における工夫」

司会 藤城 光弘（名古屋大学消化器内科）

今年初めて発行された十二指腸癌診療ガイドラインは、“内視鏡治療として Polypectomy、EMR、ESD、LECS などが行われているものの、各種治療法の適応基準や術者・施設要件は明らかではない”としている。これは、十二指腸における内視鏡治療の難易度や偶発症発生リスクが他臓器に比べ格段に高く、各種治療法が推奨するに足るレベルまで成熟していないことを意味している。本主題では、内視鏡治療の成績向上に結び付く、各施設の様々な工夫をご披露いただきたい。